

紀尾井だより

9/10

September / October
2024

Vol.167

紀尾井ホール開館30周年特集

紀尾井ホール室内管弦楽団 2025年度定期演奏会

2024年度後半と2025年度前半の邦楽公演を一挙にご紹介!

徳丸吉彦 山口智子 対談


邦楽をたのしもう! (第2回)

[インタビュー] マリオ・ブルネロ&川口成彦

[インタビュー] 清元一太夫&鶴澤寛太郎

連載

[クラシック音楽のテーマに基づく3話] ブランデンブルク協奏曲をめぐる3つの話



30th

NIPPON STEEL
KIOI HALL

紀尾井ホール開館30周年

紀尾井ホールはおかげさまで2025年4月2日に開館30周年を迎えます。

長きにわたり、皆さまにご愛顧を賜りまして、心より感謝申し上げます。

2024年9月から2025年7月までを30周年記念期間と位置づけ、さまざまな催しで皆さまをお迎えます。

これからも紀尾井ホールにどうぞご期待ください。

開館30周年記念ロゴマークのご紹介

万華鏡のような色のとりどりは、演奏家たちがそれぞれに舞台上で表現するさまを表しています。やさしく、親しみやすい色合いにしました。

それとともに、紀尾井ホールで出逢った方々のさまざまな思いが刻まれた30年の時と、これからもあたたかな響きあいが続いていく未来を表現したものです。



ブランド・メッセージ

響け、桜の園から

紀尾井ホールは、桜の木々に囲まれて建つこの場所を「桜の園」になぞらえ、

「いざ、桜の園へ」

を掲げて1995年4月に開館し、数多くのアーティストがこの「桜の園」に集い、華麗な音の花を開かせてきました。

豊かな音楽芸術に彩られるようになった「桜の園」から、さらなる新しい波を起こして発信していきたい——という思いを、この新しいブランド・メッセージに込めています。

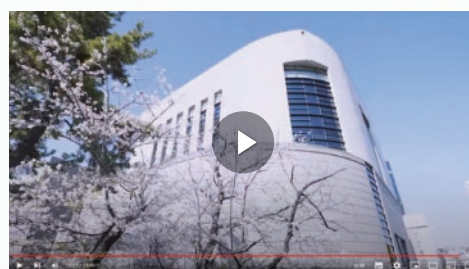
「響け、桜の園から」を合言葉に紀尾井ホールは、「第2章」へと進んでまいります。

30周年記念スペシャル・ムービーができました！

紀尾井ホールの30年の歩みをまとめました。ぜひご覧ください。



<https://youtu.be/Elzslb5os5U>



紀尾井ホール室内管弦楽団 2025年度定期演奏会(全4回・8公演)

2025年度紀尾井ホール室内管弦楽団(KCO)定期演奏会は、前半2回を紀尾井ホールで、後半2回を東京オペラシティで開催します。また、2025年9月には住友生命いずみホールでの特別公演も予定しています。



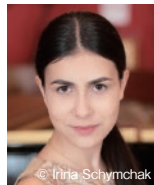
© Ozge Balkan
サッシャ・ゲッツェル
(指揮)



© slav.huben
スヴェトリーナ・ストヤノヴァ
(メゾソプラノ)



© Gerard Colletti
トレヴァー・ピノック
(指揮)



© Irina Schymchak
アレクサンドラ・ドヴガン
(ピアノ)



© Fumio Hammerich
阪哲朗
(指揮)



© Ayustet
阪田知樹
(ピアノ)



© Holger Tainck
ダンカン・ウォード
(指揮)



© Benjamin Eschwege
ヴィクトリア・ムローヴァ
(ヴァイオリン)

2025年度紀尾井ホール室内管弦楽団(KCO)定期演奏会には、首席指揮者トレヴァー・ピノックを中心に、フレッシュユナ若手指揮者・ソリストから世界的な大ベテランまで、魅力あふれる音楽家たちが出演します。KCOの「継続と深化」そして「次代を見据えた新たな挑戦・開拓」の2本柱で、紀尾井ホール内外で活動していきます。

第142回(4月)はサッシャ・ゲッツェルが8年振りに登場します。2020年に予定していたこのプログラムはコロナ禍でキャンセルとなっていたもの。前回(2017年)のメインはシューマンの交響曲第2番でしたが、今回は同じくシューマンの交響曲第4番(初稿版)をメインに、ハイドン、ツェムリンスキー、ベルクというゲッツェルの故郷ウィーンの作品を取り上げます。ソリストにはウィーン国立歌劇場から世界の舞台へと活躍の場を転じたスヴェトリーナ・ストヤノヴァ(メゾソプラノ)をお迎えします。

2025年度KCO定期演奏会には、首席指揮者トレヴァー・ピノックを中心に、フレッシュユナ若手指揮者・ソリストから世界的な大ベテランまで、魅力あふれる音楽家たちが出演します。KCOの「継続と深化」そして「次代を見据えた新たな挑戦・開拓」の2本柱で、紀尾井ホール内外で活動していきます。

第143回(7月)はピノックと。昨年絶賛されたメンデルスゾーン《讃歌》に続く形で、交響曲第4番《イタリア》をメインとし、さらに2022年のシヨパンの第2番でKCOデビューを飾ったアレクサンドラ・ドヴガンを再びソリストに迎

え、ベートーヴェンのピアノ協奏曲第4番を演奏します。

第144回(9月)は、紀尾井ホール休館に伴い会場を東京オペラシティに移し、KCOとの相性抜群の阪哲朗の指揮でシェイクスピアの『夏の夜の夢』にまつわるヴェーバーとメンデルスゾーンの作品と、コルンゴルトによる珍しいピアノ協奏曲の3曲をお届けします。1935年にシェイクスピア『夏の夜の夢』映画化の際、映画音楽用にメンデルスゾーン作品の編曲を手掛けたのがコルンゴルト。そのコルンゴルト《左手のためのピアノ協奏曲》では音楽性だけでなく、深く深い楽曲知識でも知られる阪田知樹がソリストとしてKCOに初登場。当公演は大阪・住友生命いずみホールでも開催します。

第145回(11月)も東京オペラシティで開催。イギリスから新進気鋭のダンカン・ウォードを招きます。サイモン・ラトルもその才能を認め、彼のためにベルリン・フィルのアカデミーにアシスタントのポストを新設したという逸材。まさに将来を嘱望される若手指揮者です。ソリストには40年以上にわたり世界のヴァイオリン界を牽引するヴィクトリア・ムローヴァを迎え、2025年度を締めくくりにふさわしい、豪華な内容でお贈りします。

<p>第142回</p> <p>2025年 4月18日(金)19時 19日(土)14時 【紀尾井ホール】</p> <p>【出演】 サッシャ・ゲッツェル(指揮) スヴェトリーナ・ストヤノヴァ(メゾソプラノ)</p> <p>ハイドン : 交響曲第39番ト短調 Hob. I:39 ツェムリンスキー : シンフォニエッタ op.23 ベルク : 7つの初期の歌 シューマン : 交響曲第4番二短調 op.120 [1841年初稿版]</p>	<p>第143回</p> <p>2025年 7月4日(金)19時 5日(土)14時 【紀尾井ホール】</p> <p>【出演】 トレヴァー・ピノック(指揮) アレクサンドラ・ドヴガン(ピアノ)</p> <p>ラヴェル : クープランの墓 ベートーヴェン : ピアノ協奏曲第4番ト長調 op.58 メンデルスゾーン : 交響曲第4番イ長調《イタリア》op.90</p>
<p>第144回</p> <p>2025年 9月15日(月・祝)14時 16日(火)19時 【住友生命いずみホール(大阪)】</p> <p>【出演】 阪哲朗(指揮) 阪田知樹(ピアノ)</p> <p>調整中(ソプラノ2名)、コーラス</p> <p>ヴェーバー : 歌劇《オベロン》J.306～序曲 コルンゴルト : 左手のためのピアノ協奏曲ハ長調 op.17 メンデルスゾーン : 劇付随音楽《夏の夜の夢》op.21 & op.61 [序曲付き全曲]</p>	<p>第145回</p> <p>2025年 11月21日(金)19時 22日(土)14時 【東京オペラシティコンサートホール】</p> <p>【出演】 ダンカン・ウォード(指揮) ヴィクトリア・ムローヴァ(ヴァイオリン)</p> <p>曲目調整中</p>

年明けには、恒例となったニューイヤー・コンサートも予定しています。
こちらもお楽しみに。

紀尾井 明日への扉シリーズ
2025年4月～7月の間に全4公演を予定しています。
詳細は決まり次第ウェブサイト等で発表いたします。

2024年度後半と2025年度前半の 邦楽公演を一挙にご紹介!

邦楽主催公演は人気シリーズの数々をお届けします。どの演奏会も、邦楽ビギナーの方にも楽しんでいただける丁寧な解説付きで、趣向を凝らした演目をご用意しています。ぜひこの機会に一度足を運んでみてください。



2024
11/28
木
18:30

紀尾井たつぷり名曲8 長唄「春興鏡獅子」〈柀屋勝四郎×柀屋栄八郎〉

中国の清涼山を訪れた寂昭法師が、牡丹に戯れて舞う獅子を目にするという能の『石橋』をもとにしたもので、「獅子物」や「石橋物」といわれています。江戸城大奥の正月お鏡曳きの日のこと、踊りを望まれた小姓が舞っているうちに獅子の精につかれて、胡蝶とともに牡丹の花に遊び狂う、迫力満点の大曲です。

〔出演〕 柀屋勝四郎、今藤政貴、柀屋巳之助、柀屋勝四寿、柀屋勝四助(唄)
柀屋栄八郎、柀屋勝十郎、柀屋勝国悠、柀屋三祿、柀屋勝司郎(三味線)、藤舎呂英(囃子)、児玉竜一(お話)

〔演目〕 お話「筋の(通ら)ない鏡獅子」、長唄「春興鏡獅子」

柀屋勝四郎

柀屋栄八郎

2024
12/18
水
18:30

音楽でつづる文学8 源氏物語-浮舟-

浮舟は、薫大将(源氏の息子。実は柏木の息子)と匂宮(源氏の孫)の間で愛されることに悩み、入水自殺をはかります。その後助けられたものの、出家して俗世の愛を拒みます。箏組歌「橋姫」は『源氏物語』五十四帖のうちの最後の宇治十帖の「橋姫」以下「浮舟」を含む六巻から一歌ずつ六歌を使用して構成、地歌「新浮舟」は浮舟物語を簡潔にまとめて作られています。能「浮舟」では、後シテの浮舟の幽霊が苦悩と妄執を晴らす幽玄の美しさを半能の形でお楽しみください。

〔出演〕 萩岡松柯(箏)、米川敏子(箏)、青木鈴慕(尺八)、友枝雄人(能)、野川美穂子(解説)

〔演目〕 箏組歌「橋姫」、地歌「新浮舟」、半能「浮舟」






萩岡松柯

米川敏子

青木鈴慕

友枝雄人


2025
3/6
木
18:30

邦楽探検 詞章の謎 File.5 清元「文屋」

邦楽は敷居が高い、そもそも歌詞の意味がよくわからない……。このシリーズではそんな悩める「壁」を取り払い、邦楽をもっと楽しんでいただく企画です。清元「文屋」は、古今和歌集で紀貫之が取り上げた六歌仙一人、文屋康秀が小野小町のところへ忍んで行こうとし、それを阻もうとする官女とのやりとりを軽快な清元の曲で花柳源九郎による舞の実演とともに、歌詞を紐解きます。

〔出演〕 花柳源九郎(立方・解説)、児玉竜一(ご案内)






〔演目〕 解説と舞踊「文屋」



花柳源九郎

邦楽 明日への扉

“いま”をつくる、“明日”を切り開く「邦楽 明日への扉」。
日本伝統芸能の明日を担う若手音楽家を取り上げ、いま、を作り上げていく演奏家を紹介しします。

<div style="background-color: #808080; color: white; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">2024年度</div> <div style="background-color: #808080; color: white; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">2024 10/29 火 19:00</div> <p>第5回 清元一太夫 (清元節)</p> <p>▶詳細はP8・9をご覧ください</p>	 清元一太夫	<div style="background-color: #808080; color: white; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">2025 1/31 金 19:00</div> <p>第6回 鶴澤寛太郎 (義太夫節)</p> <p>▶詳細はP8・9をご覧ください</p>	 鶴澤寛太郎	
<div style="background-color: #808080; color: white; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">2025年度</div> <div style="background-color: #808080; color: white; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">2025 4月</div> <p>第7回 柀屋長寿郎・柏要二郎 (長唄)</p>	 柀屋長寿郎	 柏要二郎	<div style="background-color: #808080; color: white; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">2025 6月</div> <p>第8回 日吉章吾 (平家・箏曲)</p>	 日吉章吾

そのほか、以下公演を予定しています。詳細は決まり次第順次ウェブサイト等でお知らせします。

<div style="background-color: #808080; color: white; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">2024年度</div> <p>音楽でつづる文学9 好色五人女-八百屋お七- 紀尾井たつぷり名曲9 義太夫節「絵本太功記 尼ヶ崎の段」</p>	<div style="background-color: #808080; color: white; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">2025年度</div> <p>邦楽と洋楽の邂逅 ほか</p>
--	---

2025年8月以降休館中は、全国各地の会場で邦楽とクラシックのコラボレーション公演を企画しています。また、公演についての最新情報は、随時紀尾井ホールウェブサイトで発表していきます。どうぞご期待ください。

邦楽をたのしもう！

徳丸吉彦・山口智子対談 ②

邦楽の声の 魅力と味わい

民族音楽学を広く研究する徳丸吉彦さん(音楽学者)と、地球の音楽映像ライブラリー「LISTEN」で世界各国を巡り二五〇を超える曲を収録された山口智子さん(俳優)が邦楽の魅力語り合うシリーズ、第2回は邦楽の「声」がテーマです。邦楽には大きく分けて「うたいもの」と「語りもの」の2系統がありますが、長唄や義太夫節などのジャンルによっても声の出し方に特徴があります。その多彩で奥深い魅力を探っていただきます。



© 堀田力丸



徳丸 今回は邦楽の「声」の話をしてしよう。

山口 「声」は私たち人間が最初に発する「音楽」とも言えますね。

徳丸 そうですね。山口さんは世界各地で珍しい声をたくさん聴かれたでしょう？

山口 はい、たとえば北極圏の「喉歌」と呼ばれる北方民族の独特な歌唱法など、「ウオー」という動物の鳴き声のような響きの中に、強烈な生命力を感じました。異世界とコンタクトできる音の周波数かもしれないですね。自然と共鳴する声のパワーを感じました。

徳丸 邦楽の声の文化の一つに声明があります。

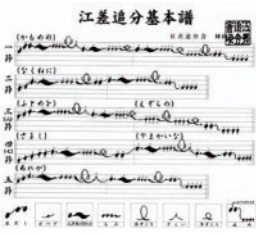
山口 古代から続く祭儀や仏教儀式で行われる「声明」の響きには、ゾクゾクします。

徳丸 真言声明に「云何唄」という曲があります。「どうしたら長寿が得られるでしょうか」という意味の「云何得長寿」

と歌うところがあるのですが、たとえば最後の「じゅ」の母音「う」を何度も繰り返して、音高を微妙に揺らしながら長く伸ばすのが特徴です。

山口 声明といえば、イタリア・サルディニア島の歌文化「カント・ア・テノーレ」を思い出しました。声明のように唸るような低音の響きと、「ボンビリボンボン」というようなシンプリな声を重ねて、4人で組んでアカペラで呪術的ともいえる不思議なハーモニーを生み出す歌文化です。互いにそれぞれの声に耳を傾けて集中し、自分の音域の役目をまっとうする伝統は、瞑想にも似た高尚な精神性を感じました。サルディニア人の起源はアジアという説もあります。古代に中央アジアから渡ってきた騎馬民族らしいです。アジアから西欧へと旅した声の文化が、今もイタリアの島に息づいているかもしれない。声に秘められた人間の旅の歴史に深く感動しました。

徳丸 声にはとても強い力がありますね。ところで、一つの音を長く伸ばして飾りをつける声明のような歌い方を「メリスマ」というのですが、その典型ともいえるのが《江差追分》です。伸ばす音に独特な歌い回しやこぶしを入れて歌うところがとても豊かですね。伝承のために、独自の楽譜も工夫されています。



出典：江差追分会

山口 実は、音楽を追いかける旅「LISTEN」を立ち上げるきっかけとなったのが、「OIWAKE」というフェスティバルの音源でした。日本の民謡「追分」の旋律が、ユーラシア大陸各地に残る民謡に酷似している事実を元に、さまざまな国の民謡の歌い手が北海道に集まったフェスティバルの録音です。時を超え距離を超えて、東と西の文化が遙かな旅をして出会い、歌い継がれ、今も息づいていることに心が震えました。日本と世界が、歌声と共に一瞬でシンクロする大感動。

徳丸 そうでしたか。邦楽では、歌うことを目的とした「うたいもの」と、物語を語っていく「語りもの」とに分けられますが、それぞれ使う声や発声法が異なります。また、邦楽には声明や長唄、義太夫節など多くのジャンルがありますが、それぞれ声の使い方に違いがあります。こうして声に着目して邦楽を聴いてみると、日本の音楽がいかに豊かな声の文化をもっているかがわかるのではないかと思います。次回からは邦楽で使われる楽器についてお話ししましょう。

文／芹澤一美(音楽ライター)

【訂正】 第166号P.5徳丸吉彦プロフィール 誤)聖徳大学教授 正)聖徳大学客員教授 謹んでお詫び申し上げますとともに、ここに訂正いたします。

対談の様子はYouTubeで
ご覧いただけます。



協力：ザ・キャピトルホテル 東急



© Gianni Rizzotti

© 武藤章

マリオ・ブルネロ & 川口成彦

今年目玉公演の一つ、「紀尾井ホールファミリー」といえる二人の名手によるデュオ・リサイタル！チェロのマリオ・ブルネロと、フォルテピアノの川口成彦が紀尾井ホールで初共演します。

川口成彦さんがブルネロへのインタビューを含め、意気込みを語りました。

2022年から今年にかけての《紀尾井レジデント・シリーズⅡ》が幕を閉じ、あつという間の3年の流れを未だに反芻したりしています。しかし10月24日にマリオ・ブルネロとともに再び紀尾井ホールの舞台に立つことができるという、私にとってこれまた夢のような!!公演があるので、背筋を伸ばしてまた前を向っている真夏の日々です。

ブルネロとはまだ直接お会いしたことはないのですが、日本に先駆けて欧州で一度リハーサルができないかとご相談したところ、9月2日にイタリアのマッジョーレ湖のほとりの街ヴェルバニアで初合わせをすることとなりました。ヴェルバニアにはビエール・パオロ・ダットリーノというフォルテピアノの修復家が住んでおり、プレイエルやエラール、ボワスロといったフランスのメーカーの素晴らしいコレクションがあります。それらの楽器を使用したLes Nuits Romantiquesというフォルテピアノの音楽祭も開催されており、私もこれまで3回出演しました。そのような思い出深いヴェルバニアでブルネロと初対面！さらに隣町ストレーザでブルネロ主催の音楽祭がその時期に開催されており、彼の演奏会も聴きに行くことにしました。私にとってブルネロの演奏会を拝聴する初めての機会。大変楽しみなイタリア滞在になりそうです。

さて先日ブルネロとリハーサルの話も兼ねて電話をし、紀尾井ホールでの演奏会に向けて色々質問してみました。

川口 ブルネロさんはバッハの作品をはじめ、ピリオド楽器からもインスパイアされたながら演奏に取り組まれています。なぜピリオド楽器に興味を持っているのでしょうか。

ブルネロ ピリオド楽器とともに作品を見つめ直すと、モダン楽器で弾き慣れた作品の中に自分が見つけ出していなかった宝物に遭遇することがあり、その喜びは私がピリオド楽器に興味を持って一つの要因といえるでしょう。それから速いパッセージや速い作品も、モダン楽器での演奏ではまるでカーレースのように「速い」ということに意味が見出されることが多いように感じますが、古楽器では速いパッセージの中に見られる一つ一つの音形や音程など、あらゆることに意味があると気づかされ、そういった音楽の細かい表情に一層耳を傾けたくなります。

川口 おっしゃること、よくわかります！私も古楽器に触れるようになってから、新しく気づくことだらけでした。ところでブルネロさんは、これまでもクリスティアン・ベザイデン・ホウトなどフォルテピアノ奏者との共演を重ねていますが、ロマン派の作品をピリオド楽器で取り組んだこともあるのでしょうか。それから今回は1843年のプレイエルに加えて、1825年にウィーンで作られたクレマーも使用することになりました！

ブルネロ ピアノが2台並ぶのですか！

それは素晴らしいですね。私も作品に応じて弓を変えたりできるように色々持っていきたいと考えています。それからロマン派の作品をピリオド楽器で演奏することは私にとってまだ新しい取り組みといえるもので、シヨパンやメンデルスゾーンのソナタもこれまでたくさん弾いてきました。古楽器との共演は初めてなので是非弾いてみたいと思いました。それからあなたが提案して下さったファニー・メンデルスゾーンのカプリッチョは、私は初めて演奏する機会となります。色々なことに新鮮な気持ちで臨めるステージとなりそうです。

川口 ブルネロさんが新鮮とおっしゃるステージにご一緒できて光栄です。

さて、これまで何度も日本で演奏されていますが、日本で演奏することで何か特別な気持ちになることはありませんか。

ブルネロ 日本にはこれまで数え切れないほど行って慣れているので、何か特別な感覚になるということはありません。欧州にいる時と何ら変わらない心境で演奏をします。けれども紀尾井ホールは素晴らしいホールですので、あそこで再び演奏できるということは大変楽しみです。

川口 私も紀尾井ホールで演奏できると、とても楽しみにしています。今日は本当にありがとうございます。9月のヴェルバニアではまたどうぞよろしくお願います！

今回の大変貴重なプログラムはシヨパンとメンデルスゾーンのチェロ・ソナタと軸としています。シヨパンの生涯最後の出版作品である《チェロ・ソナタ》(1846年完成は、パリに移り住んで以来の親友でチェリストのフランコムに捧げられました。多くのピアノ独奏曲を残した彼の最後の出版譜が「独り」ではなく「二人」で演奏するものだということに、どこか胸を打つものがあります。

フェーリクス・メンデルスゾーンはチェロとピアノのための作品を4曲書きましたが、その2曲目となる作品45の《チェロ・ソナタ第1番》(1838年)はチェロが上手だった銀行員のパウルに献呈されました。個人的なことなのですが、この曲は東京藝術大学の古楽科在学時に私がロマン派の時代の楽器で初めて演奏した室内楽作品で、とても思い出深い曲でもあります。

ブルネロが提案したこのフェーリクスのソナタを受けて、今回私が是非演奏したい！と提案したのがフェーリクスの姉ファニーの《カプリッチョ》(1829年)。男女格差が著しかった時代を生きて素晴らしい才能がありながら男性の影に隠れてしまった女性作曲家は数多といます。現代社会においては女性作曲家が自然にプログラムに盛り込まれることが、今後ますます増えていくと素敵だなど私自身考えていますし、とにかくこのファニーの作品が大変魅力的なのでブルネロさんをお願いして演奏することになりました。

そして演奏会の幕を開けるのはモーツアルトの歌劇《魔笛》の「恋を知る殿方には」の主題でベートーヴェンが1796年に作曲した作品66の変奏曲です。当初演奏会はプレイエルだけでおこなおうかと思いましたが、ベートーヴェンはやはりウィーン式で弾きたいな……と思い、クレーマーの使用も決めました。変奏曲の作曲年より時代がだいぶあとの楽器ですが、ファニーの作品もこちらで弾けるので前半後半ともに2台の楽器を引き分けるエキサイティングな舞台になりそうです。

ブルネロさんも仰る「宝物」。紀尾井ホールで一体どんなものが見つかるでしょうか。

文／川口成彦(ピアニスト)

ピリオド楽器の先端を行く2人が紡ぐロマン派作品

マリオ・ブルネロ&川口成彦 デュオ・リサイタル

【出演】
マリオ・ブルネロ(チェロ)
川口成彦(フォルテピアノ)

10/24
木
19:00

【曲目】
ベートーヴェン 《魔笛》の「恋を知る殿方には」の主題による12の変奏曲へ長調 op.66
メンデルスゾーン チェロ・ソナタ第1番変口長調 op.45
ファニー・メンデルスゾーン カプリッチョ変イ長調 H.247
シヨパン チェロ・ソナタ短調 op.65



邦楽
明日への



「いま」をつくる「明日」を切り開く

清元一太夫



© 堀田力丸

今、勢いある日本伝統芸能の演奏家が、本格的なリサイタル・ステージ形式でそれぞれの世界を探索するシリーズ「邦楽明日への扉」。今年度は清元節浄瑠璃方の清元一太夫と、人形浄瑠璃文楽座三味線方の鶴澤寛太郎の登場です。1814年に清元延寿太夫が江戸で興し、主に歌舞伎の舞踊音楽として伝わってきた浄瑠璃の清元節と、日本の伝統的な人形劇「文楽」の人形に、語りとともに「生命」を吹き込む三味線にスポットをあてます。出演者のおふたりに公演の聴きどころや意気込みなどを伺いました。

高音域で技巧的に語る清元節

清元一太夫が今回語るのは、《子守》《権八(上)》《吉原雀》の3曲。《子守》では、親を助けるために越後から江戸へ子守奉公にでた少女の恋への憧れや、故郷を思う心情を語ります。《権八》は、江戸時代の実話をもとに脚色された、吉原三浦屋の遊女小紫と馴染みになった白井権八の物語。小紫に会うための金が底をつき、辻斬りを働いた権八が処刑されることになり…。《権八》は上下の巻に分かれており、今回披露する上の巻は俗に《権上》といわれています。《吉原雀》は、江戸の吉原に来るひやかし客の様子を描いたもので、今回は特別に四挺四枚で賑やかに聴かせます。

清元節は高音域で技巧的に語るころころが大きな特徴です。派手で粋な江戸っ子好みのメリハリのある表現に惹かれます。そこには浄瑠璃方の工夫があり、年代や経験によって登場人物や曲の捉え方が変化し、表現方法も変わっていくといいます。「男性が男性の心情を語っているところと、女性の心情を語っているところ



声のボリユームや節回しを使い分けし、声色も変えます。今回の演目ではありませんが、《隅田川》では子どもが人買いに連れ去られて、気が狂ってしまうほどに子どもを想う親の気持ちを語りますが、自分子どもがいけないこと、できてからでは子どもに対する感情が変わってきました。演奏しながら込み上げてくるものがあるの、語りも変化しているのではないかと思えます。あまり深いことを考えていない20代、いろんなことを経験していく30代、それらを経ってきた今40代でも変わります。高い声が出やすい時期、低い声が出やすい時期、いろんな時期があつて年々変わっているような気がします。同じ高い声でも、20代の頃の出し方と今とは違います」

一太夫の父・清元志寿子太夫と、曾祖父の故清元志寿太夫は浄瑠璃方、祖父の故清元榮三郎は三味線方。志寿太夫と榮三郎はともに人間国宝で芸術院会員。ほかにもこの世界で生きる親戚たちが多く、清元節に囲まれて育ちました。というわけで小学生のころから自然と口ずさんでいたのは、「メロディが大好き」な清元節。一太夫にとつて清元節は歌謡曲と同じ、普通の音楽。

そして大好きなのが安全地帯の玉置浩二。「ひと声聴くだけで玉置さんとわかります。その人しか出せない、いろんな経験をしてきた人にしか出せない声に惹かれます。声を出すことは楽しいし、気持ちいいです。それを伝えたいです。そして清元をみんな知らないの、せめて歌舞伎に出ている音楽とわかってもらえるくらいにしたいです」

箏・三味線・胡弓を披露 《阿古屋琴責の段》

「文楽三味線は語りの伴奏ということではなく、三味線自身が物語を語るように演奏します。ほかのジャンルの三味線と比べて残響は大きく、ゆったりしたものからテンポよく弾くものまで幅広く演奏できるのが魅力です」

その魅力をたっぷり聴いてもらおうと、
《妹背山婦女庭訓 太宰館の段》と《壇浦兜軍記 阿古屋琴責の段》を披露します。

「《妹背山婦女庭訓 太宰館の段》では、竹本小住太夫がメインの登場人物の公家3人をどのように語りわけるか、手数が増える後半の三味線をいかに鮮やかに演

奏するかが聴きどころです。誰を表現している文章かによって、三味線も寸法や全体の運び、撥の使いかたを変えます」

《壇浦兜軍記 阿古屋琴責の段》の注目点はなんといっても箏・三味線、胡弓の演奏です。壇ノ浦の合戦で敗れて地下に潜伏する平家の残党の行方を追う源氏方は、藤原景清の愛人・阿古屋を捕らえ詮議します。その責め道具としてこれらの楽器を次々演奏させて、音の乱れで本心を探りま

す。「冷静に演奏して嘘がバレないようにする場面のため、まずはミスをしたくないことです。そのなかで心情を伝える必要があります。箏は努めて冷静に弾きますが、隣で弾く義太夫三味線の音に負けないよう

鶴澤寛太郎



© 堀田力丸



に力強く。それでも柔らかく聴かせるのが難しいところです。三味線は義太夫の太棹三味線を演奏しますが、阿古屋が義太夫三味線を弾いている設定ではないので、あまり強く弾きすぎず、凛とした表情を出すことが大事です。3つ目となる胡弓は、阿古屋がもうやけくそになっているので、おもしろい派手に弾きなさいと指導されました。途中で《鶴の巢籠》をソロで弾きますが、この辺りになつてくると弓を震わせて細かく刻む奏法「振り弓」で腕がキツくなつてきますが、悲しさや必死さを表現しつつ乱れないようにするのがポイントです」

この演目が文楽の本公演に掛けられるのは10年に1回くらいとのこと。しかもこれを担当するのは経験と技量がある若手ということ、この役回りに巡り合わない三味線方もいるといいます。

寛太郎が三味線を始めたのは11歳。人間国宝で祖父の故七代鶴澤寛治の艶のある三味線の音に触発されたといいます。

「最初は撥のみ渡されて、食事、お風呂、寝ている以外は撥を握っているようにと言われました。僕たちは撥の角で持つので、

邦楽 明日への扉

協力:森永製菓株式会社

高く澄んだ声が粋な世界を作り出す 第5回 清元一太夫 (清元節)

【出演】 清元一太夫、清元國恵太夫、清元瓢太夫、清元成美太夫 (浄瑠璃)
清元志寿造、清元雄二郎、清元美三郎、清元美十郎、清元斎寿、清元泰寿郎 (三味線)
【曲目】 「子守」「権八(上)」「吉原雀」

10/29
19:00

情感も技巧も魅せる音の表現者 第6回 鶴澤寛太郎 (義太夫節)

【出演】 鶴澤寛太郎 (三味線・三曲)
豊竹呂勢太夫、竹本小住太夫 (浄瑠璃)、竹澤宗助、鶴澤清志郎 (三味線)
【曲目】 「妹背山婦女庭訓 太宰館の段」「壇浦兜軍記 阿古屋琴責の段」より

2025
1/31
19:00

監修:徳丸吉彦

1カ月後くらいに小指にタコができて、撥が引っかかり滑らなくなつてからお稽古が始まりました。祖父が弾いた節と一緒に弾き覚えると先に進む、という昔ながらの稽古です。1曲を終えるのに、差し向かいの稽古を毎日2、3時間、20日間くらいかかります」

通常の文楽公演では人形の動きや太夫の語りが注目されがちですが、今回は三味線音楽として存分に楽しんでいただきたいと話します。

取材:文/織田麻有佐(邦楽記者)

ブランデンブルク 協奏曲を めぐる

3つの話

のちに「音楽の父」と称される偉大な音楽家バッハの、職業音楽家としての姿が垣間見られる3つのお話です。

1 ブランデンブルク協奏曲 その名の由来

1721年、当時ドイツの田舎町ケーテンの宮廷楽長だったヨハン・セバスティアン・バッハ(1685〜1750)は、ベルリン在住のブランデンブルク辺境伯クリスティアン・ルートヴィヒ(1677〜1734)に、6曲からなる協奏曲集を献呈しました。フランス語で書かれたタイトルは「いくつかの楽器による6曲の協奏曲」で、「ブランデンブルク」という言葉はありません。しかしこれではわかりにくいので、19世紀のバッハ研究者でバッハ伝(1873)の著者フィリップ・シュピッタ(1841〜1894)が、献呈先の名を

採って「ブランデンブルク協奏曲」と命名し、今日に至っています。

クリスティアン・ルートヴィヒは、プロイセン王フリードリヒ1世(1657〜1713)の異母弟でしたが、フリードリヒの息子で「軍人王」と呼ばれたフリードリヒ・ヴィルヘルム1世(1688〜1740)とは異なり、ことのほか音楽を愛する貴族で、バッハの主君だったアンハルト・ケーテン侯レオポルト(1694〜1728)とも親しい間柄で、1713年に「軍人王」が常備軍設立のためにベルリンの宮廷楽団を解散したときには、ケーテン侯とともに失職した楽団員の数名ずつを引き受けたと伝えられています。

ケーテン侯レオポルトは、1717年、彼の楽団にふさわしい指導者として、ワイマール宮廷の楽師長だったバッハをスカウトして宮廷楽長に任用し、小さな宮廷にはめざらしいほど充実した音楽生活を謳歌したのでした。

2 ドイツの音楽家は フリーエージェントだった？

バッハの人生をたどってみると、18歳でアルンシュタットの教会オルガニストになつてから、よりよい環境を求めて転職を繰り返し、そのたびに所得倍増に成功していることに驚かされます。ワイマール宮廷楽師長からケーテン宮廷楽長にスカウ

トされたときは、ワイマールの殿様の怒りを買う、牢屋に入れられても転職の意志を曲げなかったと言われています。どこの宮廷や教会でも、バッハのような優秀な音楽家を雇用していることがその宮廷等のステータスに関わったからです。アメリカの野球界とはいわなくても、当時の音楽家は基本的にフリーエージェントだったので、重要な地位が空くと後継者の争奪合戦が行われました。ケーテン時代のバッハも、1720年にはドイツ最大の港湾都市ハンブルクの教会オルガニストへの転職を試みていますし、1723年にはドイツ有数の商業都市ライプツィヒのトマス・カントル兼音楽監督への転職に成功し、所得倍増にもほぼ成功しています。

3 ブランデンブルク協奏曲は バッハの商品見本？

ブランデンブルク辺境伯に献呈した「いくつかの楽器による6曲の協奏曲」は新作ではなく、それまでに書きたため、ケーテン宮廷で上演していた6曲の協奏曲を集めて曲集としたものです。特に横笛フルート、ヴァイオリン、チェンバロを独奏楽器とした第5番二長調は独創的で、長大なチェンバロのカデンツァは、この浄書稿の作成時に腕によりをかけて書き加えたものなので、バッハはこの曲で、作曲家、指揮者としてだけでなくチェンバロの名手としての



ブランデンブルク辺境伯クリスティアン・ルートヴィヒ

自分を売り込みたいと思っていたに違いありません。この曲集はまさに音楽家バッハすべての商品見本でもあったのです。
文／樋口隆一(明治学院大学名誉教授)

ブランデンブルク協奏曲をめぐる

イル・ポモドーロ with フランチェスコ・コルティ

【出演】
フランチェスコ・コルティ(指揮・チェンバロ)
イル・ポモドーロ(古楽オーケストラ)
〈ゲスト〉前田りり子(フラウト・トラヴェルソ)

2025
1/21
火
19:00

【曲目】
J.S. バッハ
C.P.E. バッハ
ゲオルク(イジー・アントン)・ベンダ
J.S. バッハ
チェンバロ協奏曲第1番二短調 BWV1052
フルート協奏曲二長調 Wq.13
チェンバロ協奏曲へ短調
ブランデンブルク協奏曲
第5番二長調 BWV1050

第34回日本製鉄音楽賞 受賞記念コンサートを開催しました

7月11日(木)、第34回日本製鉄音楽賞の受賞記念コンサートを開催しました。特別賞受賞の平井満さんはトークの中で、受賞の喜びとともに、学生時代から音楽が好きで好きで演奏会に通いつめたこと、その延長線上にご縁があり著名な演奏家とともに長年演奏会を続けてこられたこと、続けることが大切で、しかしそれが一番大変だということ、そして何より自分が演奏会を楽しんで、聴きたいと思う演奏会をこれからも企画していきたいと意欲を語りました。フレッシュアーティスト賞受賞の金川真弓さん(ヴァイオリン)によるミニコンサートでは、第13回(2002年度)同賞を受賞したピアノの小菅優さんが共演者として登場し、プログラム《ヴァイオリン・ソナタ》などを演奏、会場から大きな拍手が贈られました。



「紀尾井ホール」から 「日本製鉄紀尾井ホール」へ

2025年4月1日、ホール名が「日本製鉄紀尾井ホール」となります。1955年から始まったラジオ番組「フジセイテツ・コンサート(のちの新日鉄コンサート)」,そして「新日鉄音楽賞」で培った、日本製鉄の音楽文化支援の蓄積と経験を経て1995年に開館した紀尾井ホール。開館30周年の節目にあたり、ホール名を新たに、これからも日本を代表する音楽ホールとしてさらなる芸術文化の発展に寄与してまいります。



2025年4月からの新しいロゴマークです。

ホール大規模リニューアル 2025年8月より 開館30周年を機に

すでにお知らせのとおり、紀尾井ホールおよび紀尾井小ホールは大規模なリニューアル工事のため2025年8月から2026年12月末までの予定で休館します。ご利用の皆さまにはご不便とご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力を賜りますよう、何とぞお願い申し上げます。また休館中も、当財団は紀尾井ホール室内管弦楽団や邦楽の公演を都内および全国各地の会場で開催します。休館中も当財団の活動にぜひご期待ください。

紀尾井ホールにご支援いただいている企業および個人の方々です

紀尾井サポートシステム会員 (五十音順・「株式会社」等表記及び敬称略)

《特別協賛会員》住友商事/日鉄ソリューションズ/三井不動産/三井物産/三菱商事/三菱地所
 《みやび会員》伊藤忠商事/大島造船所/鹿島建設/商船三井/菅原/住友商事/Dr.かすみ永田町クリニック/日本郵船/丸紅/三井住友銀行/三井住友信託銀行/三井不動産/三井物産/三菱商事/三菱地所/メタルワンほか匿名2社
 《ひびき会員》大林組/オカムラ/高砂熱学工業/竹中工務店/東京きらぼしフィナンシャルグループ/山下設計
 《みどり会員》青鬼運送/赤坂維新號/今治造船/ヴォートル/エーケーディ/荏原冷熱システム/ザ・キャピトルホテル 東急/三協/清水建設/上智大学/西武リアルティソリューションズ/大成建設/千代田商事/テイスト・ライフ/東芝ライテック/永田音響設計/ニュー・オータニ/ハウス食品グループ本社/パナソニック/みずほ証券/三菱UFJ銀行/三菱UFJ信託銀行/三菱UFJモルガン・スタンレー証券/ミュージジョン/明治座舞台/ヤマハサウンドシステム/ワークショップ21
 《おおい会員》青木陽介/浅沼雄二/浅見 恵/石崎智代/磯部治生/伊藤真理子/岩城宏斗司/上野真志/馬屋原貴行/大内裕子/大垣尚司/大久保なほ子/太田清史/大花謙一/小川 保/小倉 ヒロ・ミハエル/糟谷敏秀/片山國正/片山能輔/加藤巻恵/加藤優一/神川典久/川口祥代/川島知恵/菊池恒雄/木谷 昭/楠野貞夫/栗山信子/河野紗妃/小坂部恵子/齋藤公善/齋藤幸子/坂詰貴司/坂根和子/佐久間庸行/佐野千紘/佐部いづ子/澤田紀子/潮崎通康/柴田雅美/清水 正/清水多美子/清水康子/白土英明/末岡明武/鈴木順一/鈴木 亮/高下謙吾/田中 進/陳 艶君/戸田純也/中塚一雄/中西達郎/中野洋子/中村健司/中村昌子/中山昌樹/原田清朗/藤村行俊/冬木寛義/北條哲也/堀川将史/牧本恵美子/松枝 力/松尾芳樹/松本美恵/丸井正樹/水口美輝/箕輪永世/宮島正次/宮田宜子/宮武悦子/宮原 薫/宮本信幸/陸田 実/村上喜代次/村上敏子/持留宗一郎/八木一夫/八木晶子/矢田部靖子/山内寿実/山口 彰/山口 聡/横手 聡/吉田季光/吉見 亨/渡邊一夫
 ほか匿名43名 計244口

(2024年8月1日現在)

特別支援会員 (五十音順・「株式会社」等表記略)

アステック入江/五十鈴/NS建材薄板/NSユナイテッド海運/NSユナイテッド内航海運/エヌエスリース/エヌテック/王子製鉄/大阪製鐵/九築工業/草野産業/黒崎播磨/合同製鐵/鴻池運輸/小松シャリング/山九/産業振興/三晃金属工業/サンユウ/三洋海運/山陽特殊製鋼/ジオスター/新日本電工/スガテック/大同特殊鋼/大和製鐵/高砂鐵工/高田工業所/鶴見鋼管/DNPエリオ/テツゲン/電機資材/東海鋼材工業/東邦シートフレーム/トピー工業/日亜鋼業/日鉄SGワイヤ/日鉄エンジニアリング/日鉄片倉鋼管/日鉄環境/日鉄ケミカル&マテリアル/日鉄建材/日鉄鋼管/日鉄鋁業/日鉄工材/日鉄鋼板/日鉄興和不動産/日鉄スチール/日鉄ステンレス/日鉄ステンレス鋼管/日鉄精圧品/日鉄精密加工/日鉄ソリューションズ/日鉄テクノロジー/日鉄テックスエンジ/日鉄ドラム/日鉄物産/日鉄物流/日鉄プロセッシング/日鉄保険サービス/日鉄ボルテン/日鉄溶接工業/日鉄レールウエイテック/日本金属/日本触媒/濱田重工/富士鉄鋼センター/不動テトラ/北海鋼機/幕張テクノガーデン/三島光産/宮崎精鋼/吉川工業/ワコースチール
 日本製鉄

(2024年8月1日現在)

フォトレポート

6.6(木) 三菱地所 presents 協賛：三菱地所株式会社
紀尾井 明日への扉 第39回 水野斗希(コントラバス)



アンケートより

© ヒダキトモコ

技量も音楽性もあまりにも素晴らしく、溢れ出る才能が既存の曲の枠からこぼれ落ちてしまうような印象を持ちました。ずっと応援し続けていきたい素晴らしい演奏者に出会えたことに感謝します。

6.28(金) ピアノ・トリオ・フェスティバル2024-I
トリオ・ヴァンダラー



© 堀田力丸

ピアノ・トリオ・フェスティバル2024のトップバッターを務めたトリオ・ヴァンダラー、紀尾井ホールには実に26年ぶりの登場となりました。熟練したトリオの阿吽の呼吸、ベテランの至芸をじっくりと聴かせました。

7.9(火) 紀尾井たっぷり名曲7
義太夫節「菅原伝授手習鑑 道明寺の段」竹本千歳太夫×豊澤富助



アンケートより

© ヒダキトモコ

・千歳太夫さんの覚寿は絶品です！碩太夫、勝平さんも今後の活躍がさらに楽しみになりました。
・解説で道明寺の紹介があり背景がよくわかった。古代では奈良盆地と大阪平野を結ぶ交通の要所で、ここに覚寿がいる政治的背景に思いを巡らすのも面白い。

6.21(金)・22(土) 紀尾井ホール室内管弦楽団
第139回定期演奏会



© 逢坂聡



首席指揮者トレヴァー・ピノック今年度最初の演奏会。ドヴォルジャークの協奏曲では、ソリストに迎えたクリスティーネ・バラナスがパワフルかつ華やかな音色で日本デビューを飾りました。

7.18(木) 三菱地所 presents 協賛：三菱地所株式会社
紀尾井 明日への扉 第40回 平野友葵(ヴァイオリン)



© 武藤章

本公演がデビュー・リサイタルとは思えないほど充実した演奏で、曲ごとに変わる音の表情や歌心に満ちた素晴らしい演奏で客席を魅了しました。

チケットのお申込み

紀尾井ホールウェブチケット <https://kioihall.jp/tickets>

お知らせ

チケットぴあ、イープラス(クラシック公演のみ)
CNプレイガイド(電話予約:0570-08-9999/10:00~18:00年中無休)
でもチケットを取り扱っています。

紀尾井ホール

公益財団法人 日本製鉄文化財団

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町6番5号

TEL.03-5276-4500(代表) FAX.03-5276-4527

公演の最新情報などは
こちら

<https://kioihall.jp>

